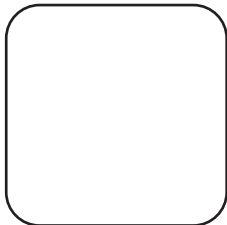


2018
2/17
(土)

『ナビ派と ボナールの時代』

ゴッガン、セザンヌ、ルドンらポスト印象派の画家たちの仕事を引継ぎ、20世紀美術の「預言者」を自任して活動したグループ「ナビ派」。近年の国際的な再評価の機運も確認しながら、彼らが果たした歴史的な役割と、中心メンバーのひとりボナール（当館所蔵作品の画家）の足跡をお話します。

(担当：松沢 寿重 学芸員)



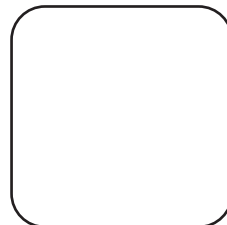
やまおり

2018
3/17
(土)

『絵画の解剖術 —構図と遠近法』

絵画の骨組みともいえる構図や遠近法の分析を通して、美術作品のもつドラマを解き明かします。それは作品を解剖する行為ともいえるでしょう。「ドラマツルギー」という言葉より、レオナルド・ダ・ヴィンチなどルネサンスの芸術家たちから、モネやドガといった近代にいたる画家たちが作り出すドラマがドラマたるゆえんを探ります。

(担当：児矢野 あゆみ 学芸員)



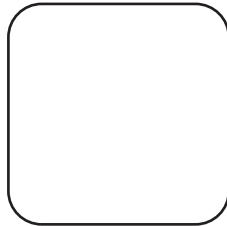
番外編！

2018
3/3
(土)

『美術館、芸術祭、 そして明日の美術。』

塩田純一 館長

地域振興を目的とする芸術祭ばやりの昨今。2017年も札幌、奥能登、北アルプス、横浜などで開催され、どこも一見華やかに賑わっているようにみえます。一方で、乏しい予算で運営される各地の公立美術館は心なしか元気がありません。わたしたちの新潟市でも、2018年度4回目の「水と土の芸術祭」が開催されます。美術館と芸術祭の関係、そして明日の美術を考えます。



やまおり

塩田純一 館長 プロフィール

1950年東京都生まれ。東北大学文学部大学院修士課程美学・美術史学専攻修了。

1979年より、栃木県立美術館学芸員、

世田谷美術館主任学芸員、東京都現代美術館学芸部長、東京都庭園美術館副館長、青森県立美術館美術統括監を経て、2011年より現職。

1999年には第48回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館コミッショナーを務めるなど、現代美術を専門とする。

水と土の芸術祭 2018 アート・ディレクター就任。

気軽にディープなアートの世界へ！

美術講座 2017



新潟市美術館

やまおり

各回共通

●時間：14:00～15:30

(開場 30 分前)

●場所：新潟市美術館 2F 講堂

●参加：聴講無料、先着100名

- ・事前申し込み不要、当日直接会場へお越し下さい。
- ・内容は変更となる場合がございます。最新情報は当館ホームページをご覧ください。

〈お問い合わせ〉

〒951-8556 新潟市中央区西大畑町 5191-9

☎025-223-1622

ホームページ：http://www.ncam.jp/

さらにディープな アートの世界へ…？



★美術講座にご参加の際には、
本チラシをお持ちください。

★受付にて、ご参加いただいた講座の空欄に、
スタンプを押させていただきます。

スタンプを7つ集めた方には、

美術館より景品をプレゼント！

中身は開けてからのお楽しみですよ♪

このチラシは景品引き換え券となりますので、

失くさずにお持ちください。

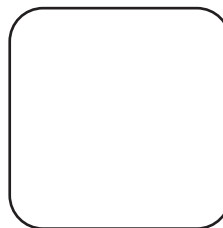
みなさまのご参加を心よりお待ちしております！

8/19
(土)

『前川國男と 亀倉雄策 -戦前編-』

建築家・前川國男（当館設計、1905-86）と、
グラフィックデザイナー・亀倉雄策（1915-97）。
戦後の日本においてそれぞれの分野をリードし
た二人は、ともに新潟に生まれ、生前親しく交
流したと言われています。前川・亀倉両氏の戦
前期の活動について平行して
振り返り、彼らがこの時期に
育んだものを探ります。

（担当：星野 立子 学芸員）

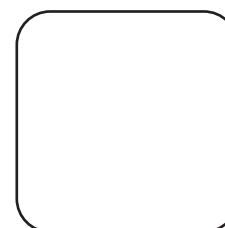


9/16
(土)

『3.11 以降の 写真』

未曾有の災害となった東日本大震災。現実を記録
する手段としてのカメラを手に、被災地に向った
者、自身も被災した者、そして立ちすくんだ者。
写真はそのとき何を伝えたのか。3・11 以降の写
真集や写真展の具体例を取り上げ、それぞれの写
真家たちのふるまいをひもと
きながら、写真というメディ
アについて考えます。

（担当：荒井 直美 学芸員）

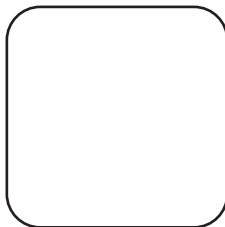


11/18
(土)

『異界の美術史』

コレクション展II「異界への旅」と関連して、異界と、
そこに棲む住人達に注目します。怪物、魔法使いとい
った不思議な生き物、現実にはあり得ないような
出来事…これらは現在までどのように美術作品の中
で描かれてきたのか、異界が表現
された美術の歴史を巡ります。

（担当：松本 美樹 学芸員）



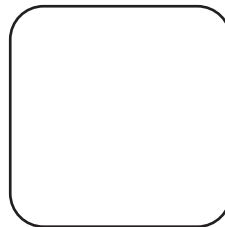
12/16
(土)

『阿部展也 線描の魅力』

新潟県五泉市出身の画家・阿部展也（1913-71）。
油彩やエンコスティック等による大型作品と並
行して初期の代表作である詩画集『妖精の距離』
（1937 刊行、詩：瀧口修造）の鉛筆ドローイング
をはじめ、ヨーロッパやインドの日常風景を生き
生きと描いた水彩スケッチ、雑誌や新聞連載に寄
せた挿絵など多彩な線描による
小品にも取り組みました。

当館所蔵の阿部作品 1300 点
余からその魅力を紹介します。

（担当：上池 仁子 学芸員）



2018
1/20
(土)

『映画は 変わったか』

映画史の冒頭に位置づけられるリュミエールや
グリフィスの「新しさ」、そして現代映画を代表
する名匠イーストウッドやスピルバーグの「古さ」
を考えます。そして日本映画にも強い影響を受け
たトリュフォーやゴダールらの映画運動「ヌーヴ
エルヴァーグ」は、映画の
「古さ」と「新しさ」に
どう関わったのでしょうか。

（担当：藤井 素彦 学芸員）

